



特許料  
(2,000円)

特許料

昭和49年11月27日

特許庁長官 殿

1 発明の名称

ニヨウソルイ セイノカウ  
3-イソオキサゾリル尿素類の製造法

2 発明者

オオサカンヒガシミヨウコウサトヨウ  
大阪府大阪市東住吉区船里町2の126  
スミモトシンサバロウ  
炭本信三郎 (ほか3名)

3 特許出願人 郵便番号 541

大阪府大阪市東区道修町3丁目12番地  
ツキノオモイヤ

(192) 堀野義興株式会社

代表者 吉利一雄

4 代理人 郵便番号 553

大阪市福島区荒洲上2丁目47番地

堀野義興株式会社特許部(電話06-458-5861)

弁理士(4703) 岩崎光隆

5 添付書類の目録

(1) 明細書

(2) 委任状

(3) 図面副本

1通

1通

1通



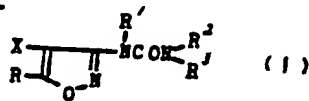
明細書

1 発明の名称

3-イソオキサゾリル尿素類の製造法

2 特許請求の範囲

一般式



(式中、Rは水素、アルキル基またはアリール基、R'は水素またはアルキル基、R<sup>2</sup>およびR<sup>3</sup>は水素、アルキル基、アルケニル基、アルキニル基、アラルキル基、アリール基、アルコキシ基またはアルキルチオ基を表わし、R<sup>2</sup>とR<sup>3</sup>は直接または他のヘテロ原子を含んで間接的に連結して含環基を形成してもよく、Xは水素、アルキル基またはハロゲンを表わし、RとXは連結してアルキレン基を形成してもよく、また上記アルキル基、アラルキル基およびアリール基はハロゲン、アルキル基、ニトロ基およびヒドロキシ基から選ばれた1以上の置換基を有してもよい。)

で示される3-イソオキサゾリル尿素類の製造に

① 日本国特許庁

# 公開特許公報

① 特開昭 51-63170

④ 公開日 昭51.(1976) 6.1

② 特願昭 49-136722

③ 出願日 昭49.(1974) 11.27

審査請求 未請求

(全8頁)

庁内整理番号

6516 49

6762 44

6762 44

6422 49

⑤ 日本分類

16 E342

16 E34

30 F372.21

30 F932

⑥ Int.Cl<sup>2</sup>

C07D261/06

C07D261/20A

ADIN 9/22

願して、

(1) 3-イソオキサゾリルアミン(Ⅱ)とイソシアン酸またはそのエステル(Ⅲ)を反応させて3-イソオキサゾリル尿素(Ⅰ)(R<sup>2</sup>=水素)を生成させること;

(2) イソシアン酸3-イソオキサゾリルエステル(Ⅳ)とアミン(Ⅴ)を反応させて3-イソオキサゾリル尿素(Ⅰ')(R'=水素)を生成させること;

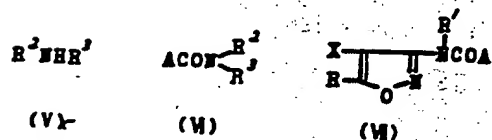
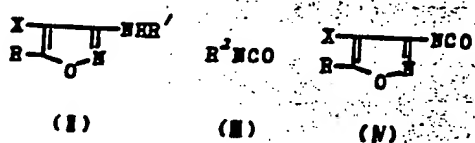
(3) 3-イソオキサゾリルアミン(Ⅱ)とカルバミド酸の反応性誘導体(Ⅵ)を反応させて3-イソオキサゾリル尿素(Ⅰ)を生成させること;

(4) 3-イソオキサゾリルカルバミド酸の反応性誘導体(Ⅶ)とアミン(Ⅴ)を反応させて3-イソオキサゾリル尿素(Ⅰ)を生成させること;

(5) 3-イソオキサゾリル尿素(Ⅰ)(X=水素)をハロゲン化して対応するα-ハロゲン3-イソオキサゾール(Ⅰ')(X=ハロゲン)を生成させること; または

(6) R', R<sup>2</sup>およびR<sup>3</sup>のうち少なくとも1個が水素で

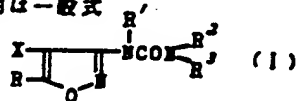
ある3-イソオキサゾリル尿素(1)をアルキル化またはアルキルチオ化してR', R<sup>2</sup>およびR<sup>3</sup>のうち少なくとも1個が新たに導入されたアルキル基またはアルキルチオ基である3-イソオキサゾリル尿素(1)を生成させることを特徴とする3-イソオキサゾリル尿素類の製造法。



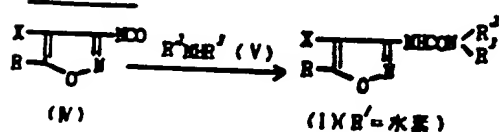
〔式中、Aは反応性残基を表わし、R, R', R<sup>2</sup>, R<sup>3</sup>およびXは前記と同意義を有する。〕

### 3 発明の詳細な説明

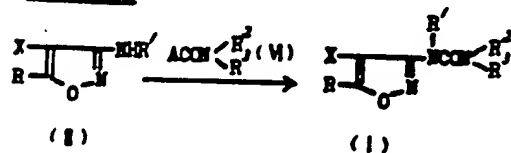
本発明は一般式



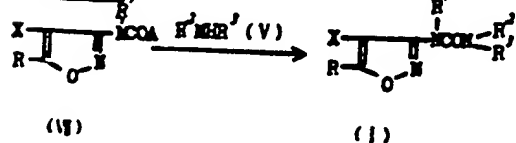
#### 第1工法



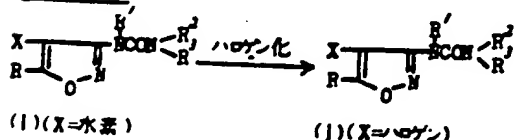
#### 第2工法



#### 第3工法



#### 第4工法

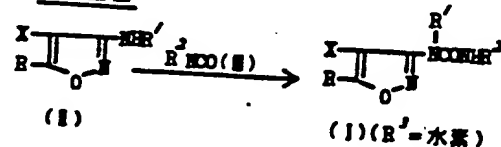


開昭51-63170(2)

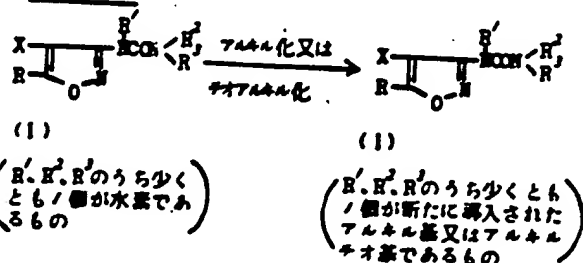
〔式中、Rは水素、アルキル基またはアリール基、R'は水素またはアルキル基、R<sup>2</sup>およびR<sup>3</sup>は水素、アルキル基、アルケニル基、アルキニル基、アラルキル基、アリール基、アルコキシ基またはアルキルチオ基を表わし、R<sup>2</sup>とR<sup>3</sup>は直接または他のヘテロ原子を含んで間接的に連結して含窒素環を形成してもよく、Xは水素、アルキル基またはハロゲンを表わし、RとXは連結してアルキレン基を形成してもよく、また上記アルキル基、アラルキル基およびアリール基はハロゲン、アルキル基、ニトロ基およびヒドロキシ基から選ばれた1以上の置換基を有してもよい。〕  
で示される3-イソオキサゾリル尿素類の製造法に関する。

この3-イソオキサゾリル尿素類(1)の製造法は次式によつて示される：

#### 第1工法



#### 第2工法



〔式中、Aは反応性残基(例えばハロゲン、エステル残基)を表わし、R, R', R<sup>2</sup>, R<sup>3</sup>およびXは前記と同意義を有する。〕

上記定義の用語についてさらに説明を補足すれば、アルキル基としてはメチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、セブチル、ペンチル、ヘキシル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシルなど、アルケニル基としてはビニル、アリル、プロペニル、ブチニル、ブタジエニル、シクロヘキセニルなど、アルキニル基としてはエチニル、プロペニル、ブチニルなど、アラルキル基としてはベンジル、フェネチルなど、アリール基としてはフ

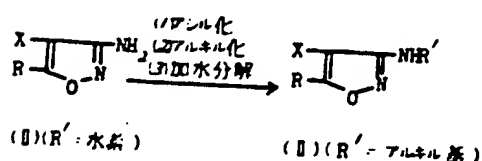
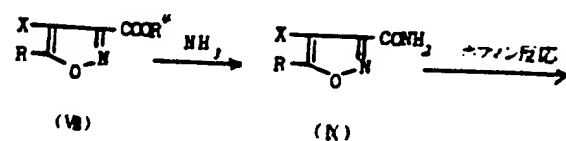
エニル、ナフチルなど、アルコキシ基としてはメトキシ、エトキシ、プロポキシ、ブトキシなど、アルキルチオ基としてはメチルチオ、エチルチオ、プロピルチオ、ブチルチオ、ペンチルチオなど、ハロゲンとしては塩素、フッ素、臭素、ヨウ素など、アルキレン基としてはテトラメチレン、ペンタメチレンなどがそれぞれ例示される。

本発明方法の第1および2工法はイソシアン酸もしくはイソシアン酸エステルとアミンとの反応であつて、常法によつて室温下または冷却下もしくは加熱下に適当な不活性溶媒（例えば、ベンゼン、トルエン、ジオキサン、ジグリム、ジメチルホルムアミド）中実施すればよい。反応を円滑に行うために塩基性触媒（例えば、ピリジン、トリエチルアミン）を添加してもよい。

第3および4工法はカルバミド酸の反応性誘導体（例えば、ハロゲン化、エステル）とアミンとの反応であつて、塩基性触媒（例えば、ピリジン、トリエチルアミン）の存在下不活性溶媒を使用しもしくは使用せずに加熱下に実施すればよい。溶

媒と還元剤の組合せなどが挙げられる。またアルキルチオ化に際しては、例えば、ハロゲン化アルキルスルフェニルを使用する方法が採用される。これらの反応はそれぞれの常法によつて、温度、溶媒などの反応条件を適宜選択して実施すればよい。

本発明方法で原料物質として使用されるアミン(II)は次式に示されるように対応するカルボン酸エステル(III)から導かれる：



（R'はアルキル基を表わし、RおよびXは前記と同意義を有する。）

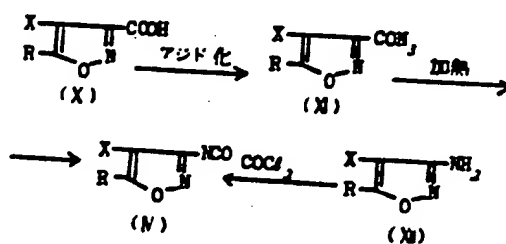
他の原料であるイソシアン酸エステル(IV)は

特開昭51-63170(3)  
媒としては、ジメチルホルムアミド、クロロホルム、テトラヒドロフラン、ベンゼンなどが例示されるが、ピリジンなどの塩基性触媒を溶媒としてかねてもよい。

第5工法はイソキサゾール核の4位のハロゲン化であつて、このハロゲン化はクロル化、臭素化、ヨウ素化などを含む。これらの反応はそれぞれの常法によつて、ハロゲン化剤、触媒、溶媒、温度条件などを適宜選択して実施すればよい。

第6工法は活性アミノ基のアルキル化またはアルキルチオ化であつて、R<sup>1</sup>、R<sup>2</sup>およびR<sup>3</sup>のうち少なくとも1が水系である尿素(1)を原料物質として使用し、その水系をアルキル基またはアルキルチオ基に置換せればよい。アルキル化に際しては、通常のアルキル化剤が一般に使用できる。例えば、メチル化について述べると、臭化メチル、ヨウ化メチルなどのハロゲン化メチル、ジメチル硫酸、シアノメタン、メタンスルホン酸メチル、トルエンスルホン酸メチルのような有機酸メチル、ホルムアルデヒドとギ酸の配合物、ホルムアルデ

次式に示されるように対応するカルボン酸(X)またはアミン(II)から導かれる：



（式中、RおよびXは前記と同意義を有する。）  
かくして得られる3-イソキサゾール尿素類(II)は新規化合物であつて、除草剤または殺菌剤として有用である。

以下に本発明方法の実施例を挙げる。

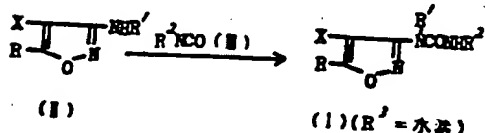
実施例1

3-アミノ-5-メチルイソキサゾール1,4,5,6,7,8を無水ベンゼン140mlに溶解し、これにかきまぜながらイソシアン酸メチルエステル81.0gおよびトリエチルアミン0.5mlを加え、混合物を室温下に約8時間かきまぜ、一夜放置し、さらに10時間加熱還流させる。氷冷却、反応液よ

り析出した結晶を濾取し、酢酸エチルより再結晶  
すると融点182.0~182.5℃の無色針状品と  
して1-ノルチル-3-(5-ヒ-ブチル-3-イ  
ソオキサゾリル)尿素21.61gを得る。

#### 実施例2~65

下記の原料物質(Ⅰ)を使用し、実施例1と同  
様に反応を行い、対応する目的物質(Ⅱ)(R<sup>2</sup>=  
水素)を得る：



(以下余白)

開昭51-63170(4)

実施例 No.	Ⅰ			Ⅱ	目的物質(Ⅱ)
	R	X	R <sup>1</sup>	R <sup>2</sup>	mp. bp又はIR
2	H	H	H	Me	1635-1660
3	Me	H	H	Me	2140-2150
4	Et	H	H	Me	1575-1590
5	Pr	H	H	Me	1550-1560
6	i-Pr	H	H	Me	1120-1130
7	c-Pr	H	H	Me	1570-1580
8	Ph	H	H	Me	1935-1940
9	-(CH <sub>2</sub> ) <sub>6</sub> -	H	H	Me	1930-1940
10	Me	H	H	Et	1330-1345
11	i-Pr	H	H	Et	1225-1235
12	t-Bu	H	H	Et	1790-1805
13	Me	H	H	Pr	950-967
14	i-Pr	H	H	Pr	885-895
15	t-Bu	H	H	Pr	1340-1350
16	Me	H	H	i-Pr	1180-1190
17	i-Pr	H	H	i-Pr	1150-1160
18	t-Bu	H	H	i-Pr	1340-1350
19	Me	H	H	Bu	895-905
20	i-Pr	H	H	Bu	710-720
21	t-Bu	H	H	Bu	695-715
22	Me	H	H	Al	1100-1110
23	i-Pr	H	H	Al	815-825

24	t-Bu	H	H	Al	1300-1310
25	Me	H	H	c-He	1640-1650
26	i-Pr	H	H	c-He	1615-1625
27	t-Bu	H	H	c-He	1925-1930
28	H	H	H	Ph	1870-1885
29	Me	H	H	Ph	1880-1890
30	Et	H	H	Ph	1570-1585
31	Pr	H	H	Ph	1600-1610
32	i-Pr	H	H	Ph	1780-1790
33	t-Bu	H	H	Ph	1925-1935
34	c-Pr	H	H	Ph	1585-1600
35	Ph	H	H	Ph	2105-2115(d)
36	-(CH <sub>2</sub> ) <sub>6</sub> -	H	H	Ph	1870-1880
37	Me	H	H	m-Tol	1695-1700
38	i-Pr	H	H	m-Tol	1645-1660
39	t-Bu	H	H	m-Tol	1825-1900(d)
40	Me	H	H	p-Cl-Ph	2025-2070(d)
41	i-Pr	H	H	p-Cl-Ph	1740-1750
42	t-Bu	H	H	p-Cl-Ph	1885-1900(d)
43	Me	H	H	p-Br-Ph	2015-2030(d)
44	i-Pr	H	H	p-Br-Ph	1760-1770(d)
45	t-Bu	H	H	p-Br-Ph	1925(d)
46	H	H	Me	Me	630-640
47	Me	H	Me	Me	770-780

48	Et	H	Me	Me	740-750
49	Pr	H	Me	Me	450-460
50	i-Pr	H	Me	Me	775-785
51	c-Pr	H	Me	Me	670-680
52	t-Bu	H	Me	Me	1500-1510
53	Ph	H	Me	Me	1320-1330
54	-(CH <sub>2</sub> ) <sub>6</sub> -	H	Me	Me	825-835
55	t-Bu	H	Me	Me	1285-1295
56	t-Bu	Cl	Me	Me	1550-1560
57	Me	H	Et	Me	370-380
58	t-Bu	H	Me	Bu	1690, 1607
59	i-Bu	H	H	Me	cm <sup>1</sup> (CCl <sub>4</sub> )
60	i-Bu	H	Me	Me	1425-1495
61	i-Bu	H	Me	Me	123, 125°C/0.6mmHg
62	t-Bu	H	Me	Al	139-141°C/0.6mmHg
63	t-Bu	H	Et	Me	126-128°C/0.6mmHg
64	t-Bu	H	Me	Et	1065-1075
65	t-Bu	Br	H	Me	1683, 1603
					cm <sup>1</sup> (CCl <sub>4</sub> )
					1605-1610

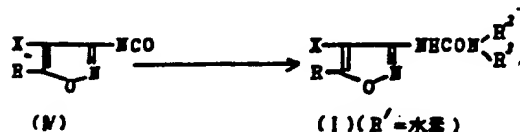
注) 上記表中の略号は下記の意味を有する：H(水素)、  
Me(メチル基)、Et(エチル基)、Pr(プロピル基)、Bu  
(ブチル基)、Ph(フェニル基)、Al(アリル基)、He(  
ヘキシル基)、Tol(トリル基)、c-(シクロ-、1-(  
イソ-)、t-(ターシャリ-、m-(メタ-)、p-(パ  
ラ-)、d(分岐点)、mp(融点℃)、bp(沸点)、IR(  
赤外線吸収スペクトル)。

実施例 66

イソシアン酸 5-tert-ブチル-3-イソオキサゾリルエステル 1.97g をベンゼン 120ml に懸濁させ、これに N-メチルブチルアミン 1.15g を加え、3 時間還流させる。冷却、反応液から溶媒を留去し、残渣をシリカゲルの薄層クロマトグラフィーに付し、1-ブチル-1-メチル-3-(5-tert-ブチル-3-イソオキサゾリル)尿素 2.73g を得る。本品はヘキサンより再結晶し、融点 63.5~64.5℃ の結晶を得る。収率 82.8%。

実施例 67-135

下記の原料物質 (N) を使用し、実施例 66 と同様に反応を行い、対応する目的物質 (I) (R' = 水素) を得る：



実施例	R	X	R'	R'	mp, bp 又は IR
67	t-Bu	H	Me	Me	119.5-120.5
68	Me	H	H	H	201-203(d)
69	t-Bu	H	H	H	179.5-180.5
70	Me	H	Me	Me	150.5-151.5
71	t-Bu	H	Me	Al	900-910
72	t-Bu	H	Me	Met	1060-1070
73	Me	H	-CH <sub>2</sub> CH <sub>2</sub> O -CH <sub>2</sub> CH <sub>2</sub>		1700-1710
74	i-Pr	H	Me	Me	690-700
75	i-Bu	H	Me	Me	90.5-910
76	i-Pr	H	Me	Bu	1650, 1616 cm <sup>-1</sup> (CCl <sub>4</sub> )
77	i-Bu	H	Me	Bu	1678, 1630 cm <sup>-1</sup> (CCl <sub>4</sub> )
78	t-Bu	H	Me	Et	82.5-82.5
79	t-Bu	H	Et	Et	1220-1235
80	t-Bu	H	Pr	Pr	750-805
81	t-Bu	H	i-Pr	i-Pr	200-205(d)
82	t-Bu	H	Et	Bu	1677, 1612 cm <sup>-1</sup> (CCl <sub>4</sub> )
83	t-Bu	H	Me	c-Ho	149.5-150.5
84	t-Bu	H	Me	Ph	122.5-1230
85	t-Bu	H	Me	Bz	1070-1080
86	t-Bu	H	Al	Al	1676, 1610 cm <sup>-1</sup> (CCl <sub>4</sub> )
87	t-Bu	H	Bu	Bu	1678, 1611 cm <sup>-1</sup> (CCl <sub>4</sub> )
88	t-Bu	H	i-Bu	i-Bu	1120-1130

89	Me	H	Me	Bu	790-800
90	Me	H	Me	Al	890-900
91	Me	H	Me	Met	910-920
92	Me	H	H	o-F-Ph	1700-1710
93	Me	H	H	2,4-Cl <sub>2</sub> -Ph	2080-2090
94	Me	H	H	p-NO <sub>2</sub> -Ph	253-254(d)
95	Me	H	-(CH <sub>2</sub> ) <sub>6</sub> -		1930-1940
96	Me	H	-(CH <sub>2</sub> ) <sub>7</sub> -		1590-1600
97	Et	H	Me	Me	84.5-87.5
98	Et	H	Me	Bu	1652, 1624 cm <sup>-1</sup> (CCl <sub>4</sub> )
99	Et	H	Me	Al	64.5-67.5
100	Et	H	Me	Met	670-680
101	Et	H	-(CH <sub>2</sub> ) <sub>2</sub> O(CH <sub>2</sub> ) <sub>2</sub> -		121.5-1220
102	Pr	H	Me	Me	880-890
103	Pr	H	Me	Bu	1680, 1622 cm <sup>-1</sup> (CCl <sub>4</sub> )
104	Pr	H	Me	Al	550-570
105	Pr	H	Me	Met	640-650
106	Pr	H	-(CH <sub>2</sub> ) <sub>2</sub> O(CH <sub>2</sub> ) <sub>2</sub> -		108.5-109.0
107	i-Pr	H	Me	Al	55.5-56.5
108	i-Pr	H	Me	Met	54.4-55.5
109	i-Pr	H	-(CH <sub>2</sub> ) <sub>2</sub> O(CH <sub>2</sub> ) <sub>2</sub> -		130.5-131.5
110	i-Bu	H	Me	Al	25.5-27.0
111	i-Bu	H	Me	Met	820-830
112	i-Bu	H	-(CH <sub>2</sub> ) <sub>2</sub> O(CH <sub>2</sub> ) <sub>2</sub> -		109.5-110.5

113	t-Bu	H	H	s-Bu	132.5-1340
114	t-Bu	H	H	i-Bu	121.5-1220
115	t-Bu	H	H	t-Bu	180.5-181.5
116	t-Bu	H	H	2,4-Cl <sub>2</sub> -Ph	226.5-2270
117	t-Bu	H	H	Bz	136.5-137.5
118	t-Bu	H	H	α-Me-Bz	1180-1190
119	t-Bu	H	Me	Pr	740-770
120	t-Bu	H	Me	i-Pr	90.5-91.5
121	t-Bu	H	Me	s-Bu	112.5-114.5
122	t-Bu	H	Me	i-Bu	113.5-114.5
123	t-Bu	H	Me	t-Bu	1490-1510
124	t-Bu	H	Me	Ho	1679, 1615 cm <sup>-1</sup> (CCl <sub>4</sub> )
125	t-Bu	H	Me	α-Me-Bz	1210-1220
126	c-Pr	H	Me	Me	1450-1460
127	c-Pr	H	Me	Met	77.5-78.5
128	Ph	H	Me	Me	1830-1850
129	Ph	H	Me	Met	1280-1290
130	-(CH <sub>2</sub> ) <sub>6</sub> -		Me	Me	164.5-165.5
131	-(CH <sub>2</sub> ) <sub>7</sub> -		Me	Met	111.5-1120
132	t-Bu	H	-(CH <sub>2</sub> ) <sub>6</sub> -		1320-137.5
133	t-Bu	H	-(CH <sub>2</sub> ) <sub>7</sub> -		1140-1150
134	t-Bu	H	-(CH <sub>2</sub> ) <sub>2</sub> O(CH <sub>2</sub> ) <sub>2</sub> -		1790-1800
135	H	H	Me	Met	1717, 159.5 cm <sup>-1</sup> (CCl <sub>4</sub> )
136	H	H	2,4-Cl <sub>2</sub> -Ph	H	205.0-207.0(d)



ゼン3mlを加え、硫酸ジメチル0.27gを滴下し、室温下2時間かきまぜたのち、さらに1時間40分間還流する。冷後、不溶物をろ去し、ベンゼン溶液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および水で順次洗浄し、無水芒硝にて乾燥し、溶媒を留去する。残液をカラムクロマトグラフィーにより精製し、1,3-ジメチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素0.197gを得る。収率5.3%。

#### 実施例154

3-アミノ-5-メチルイソオキサゾール49.06gにピリジン3gと塩化ジメチルカルバセイル1.15gを加え、60℃にて5.5時間かきまぜる。ピリジンを減圧留去し、残液に水15mlと5%塩酸を加えて固しとし、クロロホルムで抽出する。クロロホルム層よりクロロホルムを留去し、残液に1.5%ノール性水酸化ナトリウム液2.5mlを加え、室温に2日間放置し、溶媒を留去する。残液に水100mlを加え、塩酸酸性としたのち、クロロホルムで再び抽出し、クロロホル

3-イソオキサゾリル)尿素0.31gを得る。  
IR: 1698, 1606 $\text{cm}^{-1}$  (CCl<sub>4</sub>)。

#### 実施例159

1-メチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素を使用し、実施例158と同様に反応を行い、油状物として1-メチル-1-ブチルチオ-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素を得る。IR: 1693, 1618 $\text{cm}^{-1}$  (CCl<sub>4</sub>)。

#### 実施例160

1,1-ジメチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素2.8gと無水酢酸ナトリウム0.93gを水酢酸10mlに溶解した溶液に臭素1.65gを加える。これを50℃にて33時間攪拌し、氷水100mlを注加し、塩化メチレンにて抽出する。有機層を炭酸水素ナトリウムの飽和水溶液と水で順次洗浄し、減圧濃縮して溶媒を留去する。残液をシリカゲルを使用してカラムクロマトグラフィーにより精製し、1,1-ジメチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素(2:1容重比)より再結晶し、融点164.5~165.5℃の結晶として1,

#### 実施例161

1-メチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素0.4735gを得る。収率5.6%。

#### 実施例157

3-メチルアミノ-5-メチルイソオキサゾールを使用し、実施例158と同様に反応を行い、融点70.0~71.0℃の結晶として1,1-トリメチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素を得る。

#### 実施例158

1-メチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素1.97gをピリジン30mlに溶解し、-30~-40℃に冷却下塩化ブチルスルフェニル1.35gを加える。混合物を-30~-40℃で6時間、さらに室温下一夜放置する。反応物を常法により処理し、油状物として1-メチル-1-ブチルチオ-3-(5-メチル-3-

1-ジメチル-3-(4-プロモ-5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素を得る。

#### 実施例161

3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)カルバミド酸メチルエステル3.37gにジメチルアミン20mlを加え、封管中100℃にて24時間加熱する。反応液よりジメチルアミンを留去し、残液をシリカゲルのカラムクロマトグラフィーにて精製し、1,1-ジメチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素2.53gを得る。収率70.6%。

#### 実施例162

3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)カルバミド酸メチルエステルを使用し、実施例161と同様に反応を行い、1,1-ジメチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素を得る。収率69.5%。

#### 実施例163

3-メチルアミノ-5-メチルイソオキサゾール1.540gをシリカゲルを使用してカラムクロマトグラフィーにより精製し、1,1-ジメチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素を得る。収率70.6%。

## 4 前記以外の発明者

クサノ クサノ  
滋賀県草津市草津2の4の4 /  
ユキ ナガ ヒサ シ ロウ  
行 永 寿 二 郎  
トヨノウゲンヒガノセムラオオアヤヨシカワ  
大阪府豊能郡東能勢村大字吉川15の342  
イシ ヅカ イチ ロウ  
石 塚 一 郎  
イケダ ハナオ  
大阪府池田市細町619の6  
スギ タ シン オ  
杉 田 実 男

下塩化水素ガスを30分間導入し、1時間そのままかきまぜたのち、減圧留去して過剰の塩化水素ガスを除く。トルエン30ccを追加し、50〜70℃にて35時間ホスゲンガスを導入する。混合液を室温下に一夜放置し、浴温40〜45℃にてトルエンを留去する。残液にピリジン20ccとジエチルアミン1gを加え、50℃にて6時間かきまぜる。反応液よりピリジンを減圧留去し、残液に水20ccを加え、塩酸酸性としたのち、クロロホルムにて抽出する。クロロホルム層を減圧濃縮し、残液をシリカゲルのカラムクロマトグラフィーに付して融点700〜710℃の結晶として1,1,3-トリメチル-3-(5-ヒープチル-3-イソオキサゾリル)尿素を得る。

特許出願人 塩野製薬株式会社

代理人 弁理士 岩崎 光雄